未来表現“就要～了”“快要～了”について

石　井　友　美

1．はじめに

中国語の未来表現には“快～了”“快要～了”“就要～了”“要～了”などがある。この中でも“就要～了”“快要～了”についてはその構造を副詞“就要”+“了”、副詞“快要”+“了”という“快要”“就要”を一つの副詞として捉える見方がある。例えば佟慧君,梅立崇（2002)、候学超（1998）は“快要”“就要”を一つの副詞として扱っている。一方､“快要～了”“就要～了”の構造を“快”+“要～了”､“就”+“要～了”と捉えることもできる。それは以下のように“快要～了”“就要～了”は“要～了”とは異なった文法現象を示すためである。以下の例を参照されたい。

（1）　a．天都要亮了。
　　b.*天都就要亮了。
　　（空がまもなく明ける。）

（2）　a．他明天要回国了。
　　b.*他明天快要回国了。
　　（彼は明日、まもなく帰国する。）

上記(1)では“要～了”は“都”と共起可能であるが、“就”が加わり“就要”になることで､“都”とは共起できなくなる。また(2)では“要～了”は“明天”と共起できるが､“快”が加わり“快要”になることで共起できなくなる。また“就要～了”“快要～了”の間においても共起可能、不可能の現象は起きる。

（3）　a．天已经快要亮了。

b .*天已经就要亮了。

（空はもうまもなく明ける。）

（4）　a．他明天就要回国了。

b .*他明天快要回国了。

（彼は明日、まもなく帰国する。）

本稿では以上のような現象は“快要～了”“就要～了”が“要～了”の一種であり、何かしらの影響を“快”“就”が“要～了”に与えることにより生じると考える。以下、“快”“就”が“快要～了”“就要～了”にどのような影響を与えているのかを探り、上記のような共起現象の差異を引き起こす原因について探っていきたい。尚、本稿で言及する未来表現は“就要～了”“快要～了”のことを指す。

2．“就要～了”“快要～了”の構造

本稿では“就要～了”“快要～了”の構造をそれぞれ“就”+“要～了”“快”+“要～了”の構造で考える。本章では“就”“快”と“要～了”が未来表現においてどのような役割を持つのか見ていきたい。

2.1　未来表現における“要”と“了”

最初に“就要～了”“快要～了”に共通する“要”と“了”について見ていきたい。“要”と“了”は“要～了”の形で未来を表すが、それぞれがどのような役割を持っているのであろうか。大西（1998）は“要～了”の“要”を助動詞として扱い、“了”を新たな状況の出現を表す語気助詞として扱っている。そしてこの両者が合わさることで未来表現が生まれると説明している。以下、大西の挙げた例を用いて説明したい。

（5）　a．悟空要过桥。

（悟空は橋を渡るつもりだ）（大西1998：5）

b．悟空要过桥了。

（悟空は橋を渡ろうとしている。）（大西1998：5）

上記の(５)aにおいて“要”は意志を表す助動詞であり、その意志は悟空自身の意志である。ここでは話し手が悟空に代わり、悟空の意志を表している。次に(５)bでは新たな状況を表す“了”が伴われることにより、「悟空が橋を渡るつもり」という意志が新たに話し手の判断として発生する。つまり「悟空が橋を渡るつもり」という判断材料を話し手が観察し、その話し手の新しい判断が発生の“了”で表されている。例えば、悟空がまさに橋に一歩足を踏み入れようとしている様子、つまり判断材料を話し手が観察し、話し手に「悟空が橋を渡るつもり」という新しい判断が発生したということである。この悟空自身の意志を表す“要”と話し手の新たな判断の発生を表す“了”が共に用いられることにより、「橋を渡ろうとしている」という未来表現が生じる。

2.2　未来表現における“就”と“快”

次に“就”“快”について説明していきたい。『講談社中日字典第二版』では“快要～了”は“要～了”よりも時間は切迫しており、さらに“就要～了”は“要～了”、“快要～了”より時間が切迫していて、そのことを強調していると説明している。つまり以下のように表すことができる。

（6）　就要～了＞快要～了＞要～了
　　←――――――
　　切迫性

上記からわかるように“就要～了”が最も時間が切迫しており、次に“快要～了”が続き、最も時間の切迫性がないのは“要～了”となる。このようなことから“要～了”に“就”“快”が加わることで時間的に切迫する様子が加わるということが考えられる。以下、この時間の切迫性と“就”“快”の関係について見ていきたい。

2.2.1　時間の切迫性と“就”

まず“就”について説明していきたい。“就”は多くの意味を持ち、その使用状況は非常に複雑である。そのため研究者によってその意味や用法の分類の仕方は様々である。しかしその中で吕叔湘（1980）が挙げる“表示很短时间以内

即将发生”「短い時間内にまもなく発生することを表す」や候学超（1998）が挙げる“表示很短时间内”「短い時間内であることを表す」は動作が短時間で行われることを表しており、時間の切迫性と密接な関係があると言える。両氏が挙げる動作の短時間を表す“就”は以下の例である。

（7）　a．一直浮动在眼窝里的满眼泪刚流下来，就马上被她擦去了。
（ずっと眼のくぼみに浮かんでいた涙を流したとたん、すぐに彼女に拭き取られた。）（北大）

b．说了声谢谢就出了门，临出门前那女的又叫住了我。
（ありがとうと言って門を出て、外出しようとしている時、女はまた私を呼んだ。）（北大）

（8）　a．A：还愣着干什么？快去传太医！
（何をぼんやりとしているの？はやくお医者様を呼んできなさい！）

B：是，是，奴婢这就去，这就去！
（はい、はい、私めがすぐに行きます。すぐに行きます!）（言灵）

b．我明天就去买火车票，我要到云南清绵去找她。
（私は明日すぐに列車の切符を買いに行って、彼女を探しに雲南清綿に行こうかと思います。）（玉观音）

（7）a において“就”は“眼泪刚流下来”から“被她擦去了”までの動作が短い間に行われること、（7）b においては“就”が“说了声谢谢”から“出了门”までの動作が短い間に行われていることを表している。（8）a の“就”は発話時から“去”という動作が達成するまでの時間が短いことを表している。（8）b は“就”が“明天”が話し手の予測よりも短い時間であることを表している。このようなある動作から次の動作に移る時間や発話時から次の動作に移る時間が短時間であること、話し手の予想した時間よりも実際の時間が短いことを表すことは時間が切迫していることと類似している。さらにこのような短時間であることを表す“就”は“基本意义”「基本義」である。“就”の“基本意义”について周守晋（2004）は歴史的な意味の変移から、“限止”であると指摘して

いる。“限止”とは範囲、場所、時間を限定することである。以下の例を参照されたい。

（9） 师接得棒子,则便抱倒大愚,乃就其背,殴之数拳。

（先生は棒を持って、愚か者を押し倒して、その背中を数回殴った。）（周守晋2004：125）

(10) 老夫妻见女儿,就当下寻死觅活。

（老夫婦は娘に会うとすぐに自殺をほのめかして騒いだ。）（周守晋2004：125）

(11) 我今日就参你在本县作个都头,如何？

（私は今日、あなたを私の籍がある県で都頭（役職名）に推薦してやろうか。どうだ？）（周守晋2004:126）

(9)において“就”は“殴”「殴る」という動作の場所を“大愚”の所属成分である“其背”に“限止”している。また(10)では“见”という動作の後に“寻死觅活”が起こり、“就”はVP，就VP2の形でVP2が達成される時間を“限止”している。さらに(11)ではX（时间）就VPの形でXはVPが達成される時間の起点を表している。つまり“就”がVPの達成される時間の起点を“限止”している。“就”の“基本意义”は“限止”であるということは“就”に共通して“限止”の機能が存在するということである。上記で挙げた(7)(8)も“限止”の機能を有している。例えば(7)aにおいては“被她擦去了”の達成時間が、(8)aでは“去”の達成時間が“就”によって“限止”されている。(7)(8)からわかるように短時間を表す“就”は動作から次の動作の達成までの時間を“限止”することで、動作から次の動作への変移が短時間であることを表している。以上のような性質を持つ“就”は時間の切迫性と密接な関係があると言える。

2.2.2 時間の切迫性と“快”

次に“快”について見ていきたい。“快”には形容詞としての用法と副詞としての用法が存在する。形容詞の用法として吕叔湘（1980）は“速度高”「速度がはやい」、“赶快”「はやく」、“灵敏;敏捷”「すばやい」、“锋利”「鋭利である」

を挙げている。また副詞としての用法は“表示时间上接近；很快就要出现某种情况。一般在句末用‘了’”「時間的に近付いていることを表す。まもなくある状況が出現することを表す。一般的に文末に“了”を用いる。」と説明している。つまり副詞としての用法は未来表現である。この未来表現としての“快”は時間の切迫性とは必ずしも結びつかない。しかし形容詞としての“快”には時間の切迫と関連がある“速度高”“赶快”の用法がある。以下の例を参照されたい。

(12)　时间过得真快。

(時間が過ぎるのは本当にはやい。)

上記の例において“快”は時間が過ぎる速度がはやいことを描写している。これを言い換えると過ぎるという動作が短い時間であることを描写している。これは時間の切迫性と関連があると言える。“快”がはやさを表す場合、さらに形容詞以外にも以下のような副詞的な用法も存在する。

(13)　a．用小刀划开了绑着她的绳子，让她快跑去告诉警察。

(ナイフで彼女を縛っている縄を切り、彼女にすばやく警察に通報に行かせた。)(北大)

b．频频向我们使眼色，让我们快逃。

(しきりに私たちに目配せをして、私たちをはやく逃がそうとした。)(北大)

(14)　a．夏侯彬远远听到谈笑声，快走几步，准备加入其中。

(夏侯彬は遠くで笑い声を聞き、何歩かはやく歩き、仲間に入る準備をした。)(北大)

b．乔尼骑着马快跑一会儿,再慢跑一会儿。(北大)

(ジョニーは馬に乗って、しばらくはやく走ったり、またゆっくり走ったりした。)

(13)は“快”が後続する“跑”“逃”を修飾し、これらの動作の始動の速度を描写している。(14)は“快”が後続する“走”“跑”の動作そのもののはやさを描写している。以上から“快”は副詞的に用いられると述語の始動のはやさ、または述語のはやさを描写するということがわかる。以上のような“快”の副詞

的な用法は時間の切迫性と密接な関係がある。次の節で説明していきたい。

2.3　時間の切迫性と未来表現

前節では“就”“快”が持つ時間の切迫性について見てきた。“就”“快”はどちらも時間の切迫性と関連がある表現であるが、その性質は異なる。本節ではその差異を説明し、各々が未来表現“就要～了”“快要～了”にどのような影響を及ぼすのか見ていきたい。

まず“就”“快”が時間の切迫性を表す際の違いを説明していこう。両者の違いは以下のような命令文に現れる。

(15)　你在此不可久留,今夜就离开吧。

（あなたはここに長くいてはいけない。今夜すぐに発ちなさいよ。）（北大）

(16)　珠儿别嚷，飞天盟的人正在四处追杀我，你们快离开，不然被人发现可来不及了。

（珠儿、わめくな。飛天盟の人間が各所、私を殺そうと追ってきている。お前たちははやく発ちなさい。でなければ見つかって手遅れになってしまう。）（佛魔叛道）

上記の(15)(16)は“就”“快”を用いた命令文である。(15)の“就”は前節で説明した動作、状態の発生時もしくは発話時から動作、状態の達成時までの短い時間を表している。そして命令文であるため発話時から“离开”という動作の達成時「今夜」までの時間が短いことを要求している。次に(16)の“快”は後続する述語の始動の速度を描写する性質を持つため、“离开”の動作をはやく行うように要求している。また“快”は上記のような動作の始動を表す例以外にも以下のような動作そのもののはやさを促す命令文に用いられる。

(17)　快点儿跑!

（もう少しはやく走れ！）

(16)(17)からわかるように“快”が“就”と異なるところは動作の始動のはやさ、動作そのもののはやさを描写するにすぎず、“就”のように到達時を明らかにし

ないことである。この両者の差異は“就要～了”“快要～了”においても現れる。以下、具体的に見ていきたい。

（18）　他就要回国了。

（彼は帰国しようとしている。）

上記の例ではまず“他”が“回国”しようとしている。これが助動詞“要”で表される。次にそのような状態を話し手が観察し、“要回国”という新しい状況が発生したと認識し、“了”が用いられ、“要回国了”という未来表現ができる。ここに“就”が用いられることによって、(18)は発話された時から“回国”という動作が達成されるまでの時間が短いことが表される。そのため上記の例は“要～了”よりも時間的に切迫した様子を表す表現となる。このように“就要～了”は構成要素である“就”によって動作が達成されるまでの時間が短いことが表されるため、以下のような未来に確実に起こる出来事によく用いられる。

（19）　a．我们在这儿住了已经两年了，明天我们就要搬家了。

（私たちはここに住んでいて既に二年になった。明日私たちは引越しをする。）（北大）

b．今年，我已虚岁六十，明年就要退休了。

（今年、私はかぞえ年60で、来年には退職する。）（北大）

C．钱其深强调，还有275天香港就要回归祖国了。

（钱其深は強調する。あと275日で香港は祖国に帰還されると。）（北大）

上記の例は時間詞と時間量を表すフレーズが未来表現と共起した例である。時間詞や時間量を表すフレーズは未来に起こることが確実でなければならない。“就要～了”の構成要素である“就”が動作、状態の開始時もしくは発話時から動作、状態の到達時の間の短い時間を表すため、到達時間を表す時間詞、開始時から到達時の時間量と相性が良い。以上のことから“就要～了”は実現性の強い未来表現であると言える。次に“快”の性質が未来表現に与える特徴を見ていきたい。

(20)　他快要回国了。

（彼は帰国しようとしている。）

上記の例において“他”が“回国”しようとしている。これが助動詞“要”で表される。次にそのような状態を話し手が観察し、“要回国”という新しい状況が発生したと認識し、“了”が用いられ、“要回国了”という未来表現ができる。そしてこの未来表現“要回国了”という動作そのものがはやいこと、動作の始動の速度がはやいことを“快”を用いることで表している。このような過程を経ることで“快要～了”は“要～了”よりも切迫性を持つ表現となる。“快要～了”は構成要素“快”の性質により、以下のような例文によく用いられる。

(21)　a．我激动得心都快要跳出喉咙。

（私は心臓が喉から飛び出しそうなくらい興奮した。）（北大）

b．汉子用手指着自己的脑袋,急得快要疯了。

（漢子は手で自分の頭を指しながら、狂いそうになるほど焦った。）（北大）

“快要～了”は(21)のように様態補語の“V得”の後続成分としてよく用いられる。様態補語はその名前にあるようにVの様態を描写するものである。“快”は動作の始動のはやさや動作そのもののはやさを描写するものであり、様態補語のような“V得”以降の様態を描写する表現と相性が良い。また上記で挙げた(19)の例は“快要～了”に置き換えることはできない。

(22)　a .*我们在这住了已经两年了, 明天我们快要搬家了。

b .*今年,我已虚岁六十, 明年快要退休了。

c .*钱其深强调, 还有275天香港快要回归祖国了。

これは構成要素である“快”が速度もしくは速度の始動のはやさを描写するにすぎず、到達時や開始時から到達時までの時間量を明確にすることができないことが原因であると言える。以上のことから“快要～了”は“快”の持つ性質により、動作の始動、動作そのもののはやさを描写する特徴を持つ描写性の強い未来表現と言える。

以上、“就”“快”が持つ時間の切迫性の性質が未来表現に与える影響を見て

きた。ここで前節で挙げた図をもう一度参照されたい。

（6）′ 就要～了＞快要～了＞要～了
←――――――――
切迫性

上記で説明したように“就”“快”が持つ時間の切迫性が“要～了”に影響を与え、“就要～了”が実現性の強い未来表現、“快要～了”が描写性の強い未来表現となる。ここで注意したいのは(6)′ において“就要～了”が“快要～了”よりも切迫性を持つということである。これは“就”の持つ話し手の含意による。史金生（1993）は“就”が時間副詞として機能する場合、ある動作の実際の発生時間が予測する発生時間よりもはやい含意があると指摘している。

(23)　他昨天就来了。

（彼は昨日やって来た。）（史金生1993:43）

(23)において“来”という動作が起こる“昨天”は“来”が起こると予測されていた時間よりもはやいという含意がある。このような含意は前述した(8)ｂにも見られる。

（8）ｂ′．我明天就去买火车票，我要到云南清绵去找她。

（私は明日すぐに列車の切符を買いに行って、彼女を探しに雲南清綿に行こうかと思います。）（玉观音）

このように“就”には実際の発生時間が予測されていた発生時間よりもはやいことを表す含意があるため、それを構成要素とする“就要～了”はより切迫性を持った表現となる。

3．未来表現と副詞との共起

前章では“就要～了”“快要～了”の構成要素である“就”“快”の性質がそれぞれの未来表現に影響を与えることにより、“就要～了”は実現性の強い未来表現であり、“就”の持つ含意によって、より切迫性の強い未来表現であること、“快要～了”は描写性の強い未来表現であることがわかった。本章ではこれらの特徴が副詞との共起にどのような現象を生じさせるのか見ていきたい。

3.1 “已经”“都”

本節では副詞“已经”“都”と“就要～了”“快要～了”の共起現象を見ていきたい。

(24) a．天已经快要亮了。
b．天都快要亮了。
（空がもうまもなく明けそうだ。）

(25) a .*天已经就要亮了。
b .*天都就要亮了。

上記の例からわかるように副詞“已经”“都”は“就要～了”とは共起できない。しかし同じ未来表現の“快要～了”とは共起可能である。これは“已经”“都”の性質と前章で説明した実現性の強い“就要～了”と描写性の強い“快要～了”の性質に起因する。以下、副詞“已经”“都”の性質から詳しく見ていきたい。

“已经”は已然を表す用法であるため、未来表現と共起することが不自然に感じられる。しかし“已经”は過去、現在、未来のいずれの文脈にも用いることができる。张谊生（2004）はこの性質を“无定”と呼んでいる。

(26) 她在上大学的时候，爱上了他们的辅导员老师。老师已经结婚了。[過去]
（彼女は大学に入学した頃、指導教員を愛するようになった。しかしその先生は既に結婚していた。）（浪漫的人是不该相遇的）

(27) 他现在已经和我断绝了那种最亲近的关系，我们充其量现在是一个要好的朋友罢了。[現在]
（彼は現在既に私とあのような親密な関係を断ち、私たちはせいぜい仲良い友達にすぎない。）（你怎么也想不到）

(28) 希望回来的时候，我们的小小已经长大成人，也找到了一个好婆家。[未来]
（戻ってくる時には私たちのチビちゃんは既に成人していて、良い伴侶を見つけていることを望む。）（三生三世之背叛）

上記の(26)において“已经”は過去、(27)は現在、(28)は未来の文脈に用いられている。これらの例において“已经”は参照点以前に起こった行動や現象が参照点において持続していることを表している。例えば(26)においては“结婚”

は参照点以前に起こり、参照点においてそれが持続している。このような“已经”の性質は马真（2003）が“强调句子所说的事情、情况在说话之前，或某个行为动作之前，或在某个特定的时间之前就成为事实,其影响与效应具有延续性和有效性。”「文章の中の事柄、状況が発話の前、もしくはある動作の前、またもしくはある特定の時間の前に完成したことを強調するものであり、その影響と効果には継続性と有効性がある」と指摘している。この“已经”の性質を図にすると以下のようになる。

(29)　风已经停了。（風はすでに止まった。）

風が止まっている状態(c)



風が止まる(a)　　発話時（参照点）(b)

「風が止まる」という現象が過去のａ点で起こり、その状態が発話時（ｂ点）において持続している。そしてその状態ｃを“已经”は強調している。

次に“都”について見ていきたい。“都”にはいくつかの用法があるがその中でも“快要～了”と共起する時の用法は“已经”と同じく已然を表す場合である。また“都”の用いられる文脈は過去、現在、未来のいずれも可能である。

(30)　甲纪兰说这句话的时候显得十分激动，眼睛都湿润了。［過去］

（甲紀蘭がこの言葉を口にした時、相当激動した様子で、目はもう潤んでいた。）（北大）

(31)　那个旧习惯，现在一般都没有了。［現在］

（その古い習慣は今ではもうなくなってしまった。）（北大）

(32)　明年夏天我都大学毕业了。［未来］

（来年の夏には私はもう大学を卒業している。）（北大）

また“都”は“已经”と同じく参照点以前に起こったことが参照点において持続していることを表す。

(33)　风都停了。

（風はすでに止まった。）

「風が止まる」という現象が参照点以前に起こり、参照点においてその状態が

持続している。上記の例は(29)で用いた図に当てはめることができる。

以上からわかるように“已经”“都”は過去、現在、未来の文脈に用いることができ、動作や状態が参照点以前に発生し、それが持続することを表す性質を持つ。この性質により“已经”“都”に後続するものは参照点以前に生じた現象や起こった動作が状態として持続していることを表さなければならない。そのため“已经”“都”の後続成分として参照点よりも先のことを表す“马上”“立刻”などの副詞はあまり用いられない。用いられたとしても以下のように“马上”以降を一つの状態として捉える場合である。

(34)　我已经马上赶去，只是交通繁忙，在隧道口挤塞了一会儿。

（私はすでに急いで向かっている、ただ道路が混雑していて、トンネルの入口で少しの間、渋滞しているんだ。）（北大）

上記の例はある場所に向かうのが遅いことを責められた話し手がその言い訳として“马上赶去”「急いで向かってる」ということを既に行っていて、今もその状態が続いていると言い訳をしている場面である。つまり上記の例の“已经”以降は参照点以前に起こったことが状態として持続されている。

この“已经”の性質は未来表現においてはどのように作用するのであろうか。以下、詳しく見ていきたい。

(24)′　a．天已经快要亮了。

b．天都快要亮了。

上記の例において“已经”は“亮了”「明けそう」な状態が参照点以前から起こっていて、それを強調している。つまり「空が明けつつある」という初期段階が参照点以前に起こり、“已经”はそれが持続していることを強調している。このような未来表現を状態として捉える文脈は描写性の強い“快要～了”と相性が良い。

(35)　a．藏经楼已经快要竣工了。

（蔵経楼はもうまもなく竣工する。）（阳光之约）

b．棺木已经快要烂尽了，只剩下一堆木丝和小木片。

（柩はもうまもなく腐りきってしまいそうで、ひと山の木屑と木片

が残っているだけであった。）（中日）

上記の(35)において“已经”は後続する“快要～了”を状態として捉えている。例えば(35)ａでは“快要竣工了”「まもなく竣工する」という初期段階が過去に起こり、その状態が続いている。(35)ｂにおいても“已经”に後続する成分“快要烂尽了”の初期段階が参照点以前に起こり、その状態が継続している。次に“都”の例を見ていきたい。

(36)　ａ．我都快要哭出来了，姐姐却在一边笑得好讨厌呀。

（私はもう泣きそうであったが、姉さんは一方で嫌なほどに笑っている。）（我的Ｂ型血男友）

ｂ．一听到阿九要回去了，刘啸的心都快要疼死了。

（九男が帰っていくと聞いて、劉啸の心は既に非常に強い痛みを感じそうである。）（千金乞丐）

上記(36)ａの例においても“快要哭出来了”「泣きそうである」という状態が過去に起こり、その状態が発話時も続いていることを表す。以上のように“已经”“都”の持つ状態を強調する性質と“快要～了”の持つ描写性の性質が一致して、両者は共起可能となる。しかし“就要～了”は実現性の強い未来表現であり、近い将来に起こることに重きを置く。そのため“已经”に後続し、状態を表すには不適切である。

(37)　ａ.*藏经楼已经就要竣工了。

ｂ.*棺木已经就要烂尽了，只剩下一堆木丝和小木片。

(38)　ａ.*我都就要哭出来了，姐姐却在一笑得好讨厌呀。

ｂ.*一听到阿九要回去了，刘啸的心都就要疼死了。

3.2　“短时类副词”

次に“短时类副词”と未来表現について見ていきたい。“短时类副词”とは“马上”“立刻”“眼看”などの短時間を表す副詞である。これらは未来表現“就要～了”と共起する方が相性が良い。

(39)　我的梦想马上就要实现了。

（私の夢はもうすぐ実現しようとしている。）（北大）

(40)　看了一眼之后，心里明白，危险立刻就要来到了。

（一目見た後、心の中で理解した。危険はすぐにやって来るのだと。）（北大）

(41)　一个寒冷的下午，天色阴暗，眼看就要下雪了。

（寒い午後、空の色が暗くなり、まもなく雪が降りそうだ。）（北大）

“快要～了”はこれらの副詞とはあまり相性が良くない。以下の図を参照されたい。

	马上	立刻	眼看
就要～了	691	76	287
快要～了	0	0	10

上記の図は《北京大学语料库》における“就要～了”“快要～了”と副詞“马上”“立刻”“眼看”が共起した件数を表したものである。上記の図からわかるように“就要～了”の方が“快要～了”より“马上”“立刻”“眼看”と共起している件数が圧倒的に多い。これは“就要～了”と“快要～了”の構成要素“就”“快”の性質と“短时类副词”の性質との相性に起因する。“就”は“短时类副词”と相性が良い。そのため以下の例のように共起可能である。

(42)　a．一定有要紧的事才发电报，你马上就看。

（きっと緊急の用事があって電報を打ったのだ。すぐに見なさい。）（北大）

b．大家不必推先让后，请立刻就去，晚安！

（みなさん辞退する必要はありませんよ。すぐに行ってください。おやすみなさい！）（北大）

しかし“快”は“短时类副词”との相性は良くない。そのため以下の例のように両者が共起することは難しい。

(43)　a．??一定有要紧的事才发电报，你马上快看。

b．??大家不必推先让后，请立刻快去，晚安！

陆俭明，马真（1999）は“短时类副词”の性質を“表示某行为动作在说话之后

或另一行为动作后紧接着进行、发生或完成，强调相隔的时间很短”「ある動作が発話の後もしくは他の動作の後に続けて行われ、発生、完成することを表し、隔たった時間が短いことを強調する」と指摘している。前述したように“就”は基本義が“限止”であり、動作、状態の達成時を“限止”することで短時間を表している。この性質は時間の隔たりが短時間であることを表す“短时类副词”とは矛盾が生じることはない。しかし“快”は(13)のように始動のはやさを描写する性質がある。これは“短时类副词”の性質と重複する部分があるため、両者に矛盾が生じ、共起することはできない。

以上のように構成要素“就”“快”の性質の影響を受けるため未来表現“就要～了”“快要～了”と“短时类副词”の共起状況は異なる。

3.3 “才”

次に未来表現と副詞“才”について見ていきたい。

(44)　a．天快要暗的时候,四周才静下来。

（空がまもなく暗くなりそうな時、あたりはやっと静かになった。）（北大）

b．星期一天快要亮的时候我才睡着。

（月曜日空が明るくなりそうな時、私はやっと眠った。）（北大）

上記の例は“的时候”の中に未来表現“快要～了”が用いられ、そして後続する文には副詞“才”が用いられている。このような文の“快要～了”を“就要～了”に置き換えることはできない。

(45)　a .*天就要暗的时候，四周才静下来。

b .*星期一天就要亮的时候我才睡着。

これは“就要～了”が持つ性質と“才”が持つ性質が相容れないため生じるものである。まず“才”の持つ性質について見てきたい。张谊生（2000）は“才”には“减值强调”と“增值强调”があると説明している。“减值强调”とは時間が短いこと、数量などが少ないことを強調するもので、“增值强调”とは時間が有する長さが長いことや数量が多いことなどを強調するものである。前述した

(44)の“才”はこの“增值强调”である。(44)ａでは“才”が前文の“天快要暗的时候”に作用し、“增值强调”であるため、“天快要暗的时候”は話し手にとって“静下来”という状態になるのには遅すぎることを表している。この“才”の性質と“就要～了”が相容れない原因を次に見ていきたい。

“就”には実際の発生時間が予測した発生時間がよりもはやいという含意がある。

この性質は前述した“才”の“增值强调”の性質とは矛盾するものである。(44)ａを再掲して説明する。

(44)　ａ′ *天就要暗的时候，四周才静下来。

(44)ａ′において前文の“天就要暗的时候”は構成要素の“就”の働きにより話し手の予測よりも“暗”になるのがはやいという含意が生じる。そして後文の“四周才静下来”は“才”が用いられているため前文の“天就要暗的时候”は話し手にとって遅すぎることを表し、矛盾が生じるため、この文は成立しない。

４．まとめ

以上、未来表现“就要～了”“快要～了”の特徴を見てきた。以上の分析をまとめると“就要～了”はその構成要素である“就”の性質の影響を受けており、未来に起こる出来事に重きを置く実現性の強い未来表现である。また“就”の持つ実際の発生時間が予測よりもはやいという含意から切迫性の強い未来表现である。そのため時間詞や時間量、ある動作と次の動作の隔たりが短いことを強調する“短时类副词”の副詞と相性が良い。一方、“快要～了”は構成要素の“快”の性質の影響を受けて、描写性の強い未来表现である。そのため後続成分が状態であることを求める“已经”“都”や時間的な遅さを表す“才”と相性が良い。今回の分析では未来表现“就要～了”“快要～了”の特徴を主に見てきた。両者とその他の未来表现“要～了”“快～了”と比較し、未来表现全体の特徴の分析を今後の課題としていきたい。

＜参考文献＞

相原茂（2002）『講談社中日辞典 第二版』講談社

佟慧君，梅立崇（2002）《汉语同义词词典》商务印书馆　国际有限公司

候学超（1998）《现在汉语虚词词典》商务印书馆

陆俭明，马真（1999）《现代汉语虚词散论》语文出版社

吕叔湘（1980）《现代汉语八百词增订本》商务印书馆

马真（2003）<“已经”和“曾经”的语法意义> 语言科学 第 2 卷第 1 期：23頁-28頁

大西智之（1998）「将然相を表す“要～了”について」帝塚山大学教養学部紀要第55：1 頁- 9 頁

史金生（1993）<“就，再，才”的语义语法分析> 逻辑与语言学习　第 3 期，43頁-46頁

张谊生（2000）《现代汉语副词研究》学林出版社

张谊生（2004）《现代汉语副词探索》学林出版社

周守晋（2004）<“主观量”的语义信息特征与“就”、“才”的语义>北京大学学报第44卷第 3 期：121頁-131頁

＜引用文献＞

北大：北京大学中国语言学研究中心现代汉语语料库检索系统
(http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/)

亦凡图书馆
(http://www.shuku.net/novels/cnovel.html)

・佛魔叛道：无极　・三生三世之背叛：寂寞物语　・阳光之约:风吹佩兰
・我的B型血男友：李惠静　・千金乞丐：菲菲　・你怎么也想不到：路遥
・玉观音：海岩

中日：『中日対訳コーパス』2003　北京日本学研究中心出版

特に明記されていないものは筆者作例。